旅行者を魅了する中国の世界遺産

美丽中国 Beautiful China

文化、自然の宝45カ所

有識者3人に魅力を聞く

悠久の歴史、豊かな自然を有する中国の世界遺産の登録数は45カ所に上っている。旅行者にとって一度は訪れてみたいあこがれの場所が数多く挙がっている。中国の世界遺産の魅力を多くの人に知ってもらおうと、この特集では、東京中国文化センター・センター長の石軍氏、TBSビジョン世界遺産番組ディレクターの河野英輔氏、ジャルパック海外商品企画第2部アジア・台湾・中国グループアシスタントマネージャーの円谷豊氏の3人に話を聞いた。また、今月、東京都港区の中国文化センターで開かれるイベント「世界遺産inチャイナ〝跡と魂〟—現代中国絵画展、特別講演会」についても合わせて紹介する。

世界遺産とは、1972年のユネスコ（国際連合教育科学文化機関）の総会で採択された「世界の文化遺産および自然遺産の保護に関する条約」（世界遺産条約）に基づいて世界遺産リストに登録された、遺跡、景観、自然など、人類が共有すべき「顕著な普遍的価値」を持つ物件のこと。

世界遺産は、建築物や遺跡などの「文化遺産」、地形や生物多様性、景観美を備える地域などの「自然遺産」、文化と自然の両方にまたがる「複合遺産」の3種類に分類されている。

今年6月にカンボジアの首都プノンペンで開かれた「第37回世界遺産委員会会議」では、新たな遺産の登録が決定した。中国からは、雲南省ハニ族の棚田と新疆ウイグル自治区の天山の2カ所が世界遺産に加わった。中国の世界遺産数は合計45カ所となり、イタリアに次いで世界2位だ。

現在、世界遺産の登録数は981件。内訳は文化遺産759件、自然遺産193件、複合遺産29件となっている。

世界遺産と同じユネスコ事業の一つとして「無形文化遺産」の活動がある。世界遺産が建築物などの有形の文化財の保護と継承を目的としているのに対して、民族音楽などの芸能、伝承、儀礼、祭礼、伝統工芸技術といった無形の遺産を保護、保存する目的で設けられた。無形文化遺産では、中国から28件が登録されている。

無形文化遺産にも注目

東京中国文化センター センター長　石 軍氏

石軍氏

——今年、中国からは、雲南省ハニ族の棚田群、新疆ウイグル自治区の天山の世界遺産登録が決まった。

「中国の世界遺産は全部で45。内訳は文化遺産が31、自然遺産が10、複合遺産は4となっている」

——文化遺産が多い。特に文化遺産の価値が認められている理由は何か。

「中国の歴史の長さが関係している。1987年に中国初の文化遺産として登録された万里の長城は2千年以上の歴史を持ち、『宇宙から肉眼で見える唯一の建造物』として有名だ。秦の始皇帝陵、莫高窟、周口店の北京原人遺跡も同じ年に登録された」

「文化遺産のリストを見ると、各時代、各王朝の象徴的なものが網羅、登録されていることが分かる。まさに中国の歴史を物語っている」

——世界遺産は、中国を訪れる観光客にとって必見のスポットだ。

「好みや興味は人それぞれだと思うので、まずは興味のある分野、場所から訪れていただければと思う」

——一方で、北京市の天壇、マカオ歴史地区などの定番観光スポットもあれば、日本人観光客にはまだ馴染みのない場所もかなりある。

「福建省の土楼、河南省の少林寺を含む歴史建築群などは、本当に魅力的。機会があればぜひ見ていただきたい」

——伝統芸能の京劇に代表される、無形文化遺産（中国語では「非物質文化遺産」）も多い。

「中国の世界遺産数は、イタリアの48に継ぐ2位だが、無形文化遺産数は28で世界一だ」

——少数民族の文化の保護と継承という観点からの登録が、リストからは読み取れる。

「ウイグル族の大曲（ムカム）、朝鮮族の農民の舞踊、トン族の大歌、モンゴル族の歌唱技能ホーミーなどが登録されている」

「京劇の源と言われている昆劇、古琴（七弦琴）演奏技、中国の活版印刷技術、中国の書道、中国伝統医学の鍼灸術など、芸術や中国発祥の技術も多く登録されている」

——観光で見ることができるのは。

「京劇は北京のホテルのディナーショーなどで気軽に楽しめる。切り紙、龍泉青磁の伝統技術などは、体験観光としての可能性がある。無形文化遺産も重要な観光資源だ」

無形文化遺産の京劇

歴史の重み　心に響く

TBSビジョン 世界遺産番組ディレクター　河野 英輔氏

——中国の世界遺産の番組を製作する上で、どのようなコンセプトやテーマを設けているのか。

「深夜に放送していた旧番組『世界遺産』も含めると、これまでに中国国内の世界遺産を33カ所ほど撮影している。今の『THE世界遺産』に私は直接はタッチしていないが、最近は毎年新しく登録されたサイトを積極的に取り上げているようだ」

——これまで訪れた中国の世界遺産で印象的なスポット、またそのエピソードは。

「中国が誇るこれぞナンバーワンと言えば、文字通り世界最長の防壁である『万里の長城』だろうか。万里の長城の撮影は、中国人スタッフに委託した空撮も含め、2003年ごろから足かけ3年、撮影だけで延べ30日間ほどをかけた。通常は、文化遺産一つに7日間ぐらいを目安にしているから4倍強の日数だ。なぜこれだけかかったかというと、例えば、日本の世界遺産『姫路城』がテーマだと言えば、お城全体が見えるポジションを巡ればいい。天候条件は別として半日の行動範囲でできる。でも、万里の長城はそうはいかない。だいたいヘリコプターで空に上がっても目の前の、地図にしたら点にもならない範囲しか見えない。それはそうだ。総延長が6千㌔とも1万2千㌔とも言われるのだから（最近は2万㌔との発表があったようだが）。だからエピソードを問われれば、即、思い出すのは実際の取材よりも、担当を拝命したその瞬間の呆然とした記憶だ」

河野英輔氏（写真右）。取材を通じて現地の人々と触れ合う機会も多い

——その万里の長城をどのように取材、撮影したのか。

「全部は見えないモノをいかにしたらお腹いっぱい見た気になれるのか。3分程度のミニ番組だったら、北京近郊の八達嶺など有名な場所1、2カ所の映像にプラスしてナレーション解説でいいのだが、こちらの番組は30分ある。八達嶺だけでは10分ももたないし、具体的なリポート材料は少ししかない。では何カ所巡れば納得感が出せるのか、というと、『西から東を網羅するほかないじゃないか』と少し議論するだけですぐそうなってしまう。では文字通り隈無く東から西までたどれるかというとそれはもう計画を立てる前から予算都合で無理と判断せざるを得ない。だから、正直言うと、空撮篇1本、通常の番組を前後編で構成という番組3本分の予算でという予算面の区切りを機械的に設けることが先に立つわけだ。『これこれが必要だから、これだけかかる』ではなく、『この範囲でやる』になる。それは実は他のどんな取材でも同じことだが、この範囲でどれだけやれるのかということが即、見えてくるわけでもなく、『雲をつかめ』と言われるような気分にまずなったというのが担当になった時、即思ったこと。つまりそんな制作者の金勘定の都合から万里の長城の果てない大きさを実感してしまったという情けない話だ」

「そこで、私自身が取材して歩くために設定された日数が22日程度。東は、老龍頭、山海関、角山長城に始まり、河北省のダムに沈んだ長城、北京結点、司馬台、金山嶺という長城を回り、これだけでほぼ1週間。駆け足なら3日で回れる距離だが、なぜこれだけかかるかというと、長城は山の稜線伝いにあるから、どこの長城を撮るにも要するに山登り。登って、撮影して、降りて、移動して、泊まって、朝、また登って—の繰り返しだ。重い撮影機材を帯同しているので、ただでさえ毎日場所を移動するだけでも辛いところを毎日最低でも1時間はかかる距離を登り、時には危険な崖を歩いたりする。『わあ、凄い』なんて感慨にひたっている暇はとてもなかった」

「それでも非常に感慨深かったのは、明代の長城が北側の外長城と南側の内長城とに分岐する『北京結長城』と今呼ばれている場所だ。数年立って今どうなっているか分からないが、私がそこに行った当時は、遺跡としての修復の手が一切入っておらず、文字通りうち捨てられたまま。500年以上前のレンガ積みがガラガラ崩れるに任せた状態は、現場で見ると非常に生々しく、『つわものどもがゆめのあと』的な切なさとか、歴史の重みのようなものが心に響いてくるのを感じた。観光スポットとして人気の高い八達嶺長城のようにきれいに修復されているものの正反対。あと、この長城の伸びてゆく様は一生忘れられない。北の遊牧騎馬民族からの侵入を防ぐために北京の北を二重の防壁で守ろうとしていたという、その二重の壁が南と北に分かれて雄大な山脈の向こうに伸びていく—。北方民族への恐れと、長城を連ねようとした指揮官の思いのほどと、長城建設に携わった兵士たちの血と汗と、そして建設から500年間、これを仰ぎ見続けてきた麓の人々の歴史を—。とにかくここに立っただけで果てしない思考が巡った。もし自分が中国のツアーガイドだとしたら、一番のお勧めはこの『北京結長城』だ。行きやすい場所では決してないので、かなりマニアックかもしれないが」

「そして、その後の取材は、『嘉峪関』という明代の長城の西端。取材で行った一番西は、敦煌から少し西の『玉門関』、これは漢の時代の関所跡だが、ここから先は中央アジアへと続く砂漠で、2千年も前の土の長城が砂に埋もれていくさまが印象的だった。こちらも遠いので、なかなか行けるところではないが、もし敦煌の莫高窟を見に行くチャンスがあるなら、ぜひオプションにお勧めできるところだ」

万里の長城で長期間の取材を敢行

——撮影、取材を通して現地の方と接する機会も多かったのでは。

「単なる行楽旅行ではないから、どこに行っても多かれ少なかれ、地元の住民や役人などとの出会いがある。北京や上海ではもうウエスターンナイズな人間関係が多いようだが、私は長城のような都市部ではない所に多く行ったおかげだろうか、非常に素朴で人当たりのよい方々にお会いした。山西省で案内していただいた役人の方々は、それはもう『熱烈歓迎』とばかりに、おもてなしの嵐で宴席でちゃんとお酒につきあうだけで、『あなたはもう兄弟だ』となる。腹黒さがあるとは到底思えない人柄で、そんな人に何人も出会った記憶がある。もちろんいい人ばかりに会っているのだろうが、今の日中関係の『ぎすぎす』は、末端の市民にとっては『どうでもいい話のはずだよなぁ』と当時を振り返ると思う」

——今後取材したい世界遺産は。また、番組を通じて伝えたいことは。

「現在の担当は、TBS『THE世界遺産』と言っても、レギュラー放送ではなく、『THE世界遺産4K プレミアムエディション』という特別編を手がけている。ご存じの方も増えていると思うが、現行のハイビジョンの4倍、高精細な映像で新たに世界遺産を映像遺産化するプロジェクトだ。3日には私がプロデュース兼演出を担当したアメリカのイエローストーン国立公園編がBSTBSで放送される。『色彩の絶景』と銘打って、世界最古の国立公園の素晴らしい自然をいくつも紹介している。今は中国取材の予定はないが、九寨溝の絶景、莫高窟といったものは4Kに向いていると思っている」

歴史を理解、案内に工夫

ジャルパック海外商品企画第2部 アジア・台湾・中国グループアシスタントマネージャー　円谷 豊氏

円谷豊氏

——中国の世界遺産を活用した商品造成、企画のコンセプトは。

「中国には多くの世界遺産があり、その世界遺産の背景にある歴史、文化をより理解できるような企画にするというコンセプトで商品造成をしている。今回は、〝始皇帝の偉大さに触れる旅〟というテーマで特別企画『始皇帝の兵馬俑坑と西安宮廷料理北京・西安5日間』コースを商品造成したところだ」

——御社の中国行きツアーの特徴とは。

「観光地へのご案内の仕方にこだわりを持っているのが当社ツアーの特徴だ。同じ観光地でも朝がいいのか、夕方がいいのか、夜がいいのか。その場所が最も美しく見える時間帯、場所を意識して旅程をつくっている。当社ツアー参加のお客さまには中国でしか見ることのできない素晴らしい風景を〝絵になる風景〟で観ていただきたいと考えている。また、無用な土産店への立ち寄りはしてない」

——昨年以降、中国行きツアーにどのような対応が求められているか。また、工夫していることは。

「中国人現地ガイドとのマンツーマンの会話が、単なる観光の内容にとどまらず、さまざまな話題を通して日本と中国の相互理解につながればとこれまで以上に強く考えている。そのため、専用車、専用ガイドのコースを多くラインアップし、お客さまと現地ガイドがコミュニケーションを深められるように工夫している」

——最後にツアー日程のポイントや伝えたいことは。

「特別企画『始皇帝の兵馬俑坑と西安宮廷料理北京・西安5日間』コースでは、1999年に2号坑から発見された彩色兵馬俑に注目した。お客さまには最新のコンピューターグラフィックで再現された彩色兵馬俑の映像とその解説が収録されたDVDを出発前にお渡しする。当社ツアーのお客さまには、約2200年前の造成当時の色で彩られた風景が見えるかもしれない」

「始皇帝の兵馬俑坑と西安宮廷料理北京・西安5日間」コースの主な内容

1日目＝北京着。正陽門、旧北京駅舎、路面電車乗車、前門大街

2日目＝天安門広場、故宮博物院、万里の長城・八達嶺、明の十三陵、茶芸館

3日目＝北京発西安着。宮廷精進料理の昼食。大雁塔、西門、碑林、古文化街。楊貴妃美食宴の夕食

4日目＝兵馬俑坑、華清池、陝西省歴史博物館

5日目＝西安発

中国の世界遺産

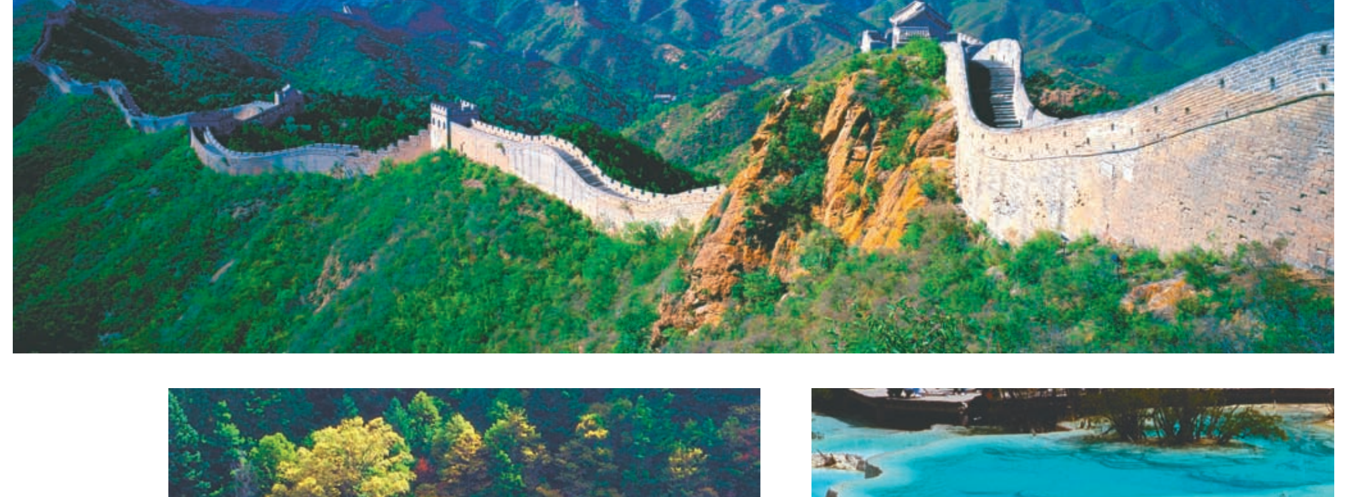
遺産名称	所在地	遺産種別	登録年
万里の長城	中国北方	文化	1987
北京と瀋陽の明・清朝の皇宮群	北京市、遼寧省	文化	1987
秦の始皇陵と兵馬俑坑	陝西省	文化	1987
莫高窟	甘粛省	文化	1987
周口店の北京原人遺跡	北京市	文化	1987
泰山	山東省	複合	1987
黄山	安徽省	複合	1990
武陵源の自然景観と歴史地域	湖南省	自然	1992
九寨溝の渓谷の景観と歴史地域	四川省	自然	1992
黄龍の景観と歴史地域	四川省	自然	1992
ラサのポタラ宮歴史地区	チベット自治区	文化	1994
承徳の避暑山荘と外八廟	河北省	文化	1994
曲阜の孔廟、孔林、孔府	山東省	文化	1994
武当山の古代建築物群	湖北省	文化	1994
盧山国立公園	江西省	文化	1996
峨眉山と楽山大仏	四川省	複合	1996
麗江旧市街	雲南省	文化	1997
古都平遥	山西省	文化	1997
蘇州古典園林	江蘇省	文化	1997
頤和園	北京市	文化	1998
天壇	北京市	文化	1998
大足石刻	重慶市	文化	1999
武夷山	福建省	複合	1999
青城山と都江堰	四川省	文化	2000
龍門石窟	河南省	文化	2000
明・清朝の皇帝陵墓群	北京市、湖北省、江蘇省、河北省、遼寧省	文化	2000
安徽南部の古村落－西逓・宏村	安徽省	文化	2000
雲崗石窟	山西省	文化	2001
雲南三江併流の保護地域群	雲南省	自然	2003
古代高句麗王国の首都と古墳群	吉林省	文化	2004
マカオ歴史地区	マカオ特別行政区	文化	2005
四川ジャイアントパンダ保護区群	四川省	自然	2006
殷墟	河南省	文化	2006
中国南部カルスト	雲南省、貴州省、重慶市	自然	2007
開平の望楼群と村落	広東省	文化	2007
福建の土楼	福建省	文化	2008
三清山	江西省	自然	2008
五台山	山西省	文化	2009
中国丹霞	貴州省、福建省、湖南省、広東省、江西省、浙江省	自然	2010
河南登封の文化財〝天地之中〟	河南省	文化	2010
杭州西湖の文化的景観	浙江省	文化	2011
澄江の化石産地	雲南省	自然	2012
上都の遺跡	内モンゴル自治区	文化	2012
新疆の天山	新疆ウイグル自治区	自然	2013
紅河のハニ族の棚田の文化的景観	雲南省	文化	2013

中国の無形文化遺産

遺産名	記載年
昆曲	2001
古琴	2003
新疆ウイグルムカム	2005
中国篆刻	2009
中国彫刻版印刷技法	2009
中国書道	2009
中国切紙	2009
中国伝統木造建築技法	2009
南京雲錦織造技法	2009
端午節	2009
中国朝鮮族農楽舞	2009
ゴサール—チベット族伝承史詩	2009
侗族の大歌—侗族歌謡祭	2009
花児—中国西北少数民族伝統歌唱	2009
マナス—キルギス族伝唱史詩	2009
媽祖信仰と習慣	2009
呼麦—モンゴル族伝統歌唱法	2009
南音—泉州伝統演唱法	2009
熱貢—青海省チベット族仏教造形芸術	2009
中国伝統シルク織造技法	2009
チベット劇	2009
龍泉青磁伝統製造技法	2009
宣紙伝統製造技法	2009
西安鼓楽	2009
広東劇	2009
京劇	2010
中国伝統医学の鍼灸術	2010
中国影絵劇	2011

注目の中国・世界遺産を紹介

中国にある世界遺産45カ所の中から、代表的な世界遺産を紹介する。このうち「紅河のハニ族の棚田の文化的景観」（雲南省）と「新疆の天山」（新疆ウイグル自治区）は、今年6月に新たに登録された世界遺産だ。


▶総延長2万1千㌔を超える「万里の長城」。大部分は明代に作られた（北京市）

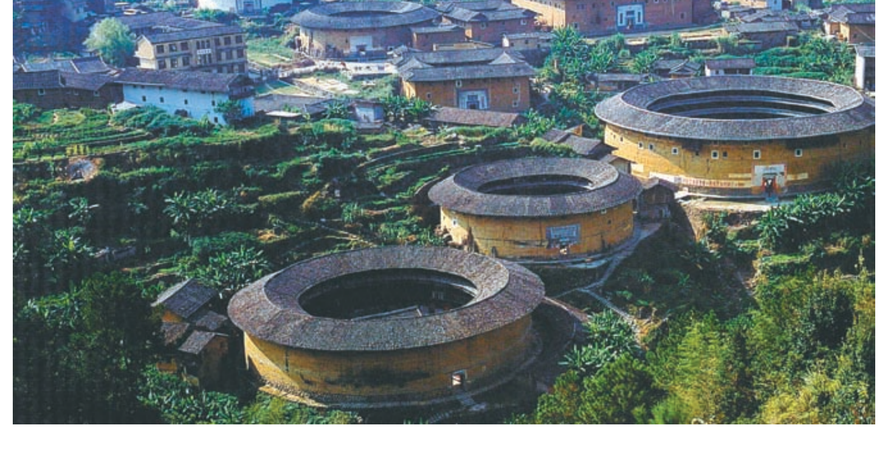
◀▲カルスト地形の湖水地帯「九寨溝」＝写真左＝と、エメラルドグリーンの石灰華段が広がる「黄龍」＝写真上＝（ともに四川省）

▶「秦の始皇陵と兵馬俑坑」。3つの俑坑には等身大の武士俑8千体、陶馬600体、戦車100台がある（陝西省）

▶湖南省張家界市の「武陵源」は独特の石柱が立ち並ぶ景観で知られる（湖南省）

▶少数民族ハニ族が1300年かけて築き上げた世界最大の棚田群「紅河のハニ族の棚田の文化的景観」（雲南省）

▶海抜3700㍍にあるチベット文化の聖地「ラサのポタラ宮歴史地区」（チベット自治区）


▶「福建の土楼」は厚い土壁と木の骨格で形成。円形や方形の巨大建築物（福建省）

▶「新疆の天山」。最高峰ボーヘダ山は7439㍍（新疆ウイグル自治区）

中日平和友好条約 締結35周年記念　世界遺産 in チャイナ　“跡と魂”—現代中国絵画展・特別講演会

世界遺産をはじめとする中国の魅力をより多くの日本人に知ってもらおうと、中国国家観光局と東京中国文化センター、新華社日本総局は、「世界遺産　inチャイナ〜“跡と魂”—現代中国絵画展と特別講演会」を東京・虎ノ門の東京中国文化センターで開く。1週間を会期とする現代中国絵画展と、3回の特別文化講演会を行う。入場料は全て無料。

主　催＝中国国家観光局駐日代表処、東京中国文化センター、新華社日本総局
協　力＝中国書画院、中鼎盈科文化伝播公司
後　援＝中国大使館、外務省、観光庁、日本政府観光局、日中友好協会、日中友好議員連盟、日中文化交流協会、日中協会、日本旅行業協会、全国旅行業協会、東京華僑総会

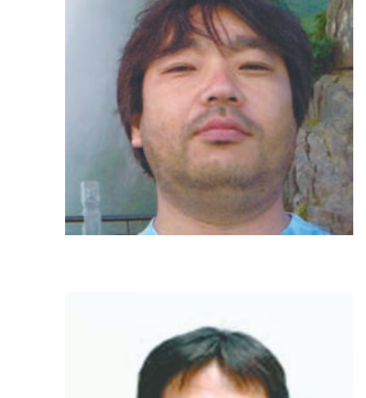
開催場所＝東京中国文化センター　（現代中国絵画展、特別講演会ともに）
東京都港区虎ノ門３—５—１　37森ビル１Ｆ
ＴＥＬ03-6402-8168　ＦＡＸ03-6402-8169

①「“跡と魂”—現代中国絵画展」
会　期＝８月８日（木）〜15日（木）午前10時30分〜午後５時30分
※最終日15日は正午まで
開幕式＝８月８日（木）午後３時から　訪日中国画家による絵画の実演披露あり

②特別講演会
第１回　８月２日（金）「万里の長城は長かった〜東から西へ駆け巡った20日間〜」
講師＝ＴＢＳビジョン世界遺産番組ディレクター　河野英輔氏
第２回　８月６日（火）「中国茶を知ろう！」
講師＝ＮＰＯ・ＣＨＩＮＡ日本中国茶協会代表　王亜雷氏
第３回　８月９日（金）「継続は力なり！　民間レベルの地道な活動が絆を築く
〜『一衣帯水友好会』活動の軌跡〜」
講師＝ヨドバシカメラ取締役広報部長　吉澤勉氏
※各回ともに講演会は午後４〜５時、交流会は午後５〜６時

◎申し込みについて＝現代中国絵画展の開幕式と、特別講演会の参加には事前に申し込みが必要。講演会は参加希望の回を記載。申し込み先は下記の通り。
中国国家観光局
E-mail cnta.tokyo@gmail.com
ＦＡＸ　03-3591-6886
※定員に達した場合のみ主催者側から返信連絡

〜特別講演会・講師の紹介〜



河野 英輔 氏　TBSビジョン「THE世界遺産4K PREMIUM EDITION」プロデューサー／ディレクター

ＴＢＳの人気テレビ番組「世界遺産」シリーズを1996年の放送スタート時から担当し世界各地を取材する。取材経験などを基に中国の世界遺産などについて語る。中国では、「万里の長城」をはじめ、「平遥古城」「峨眉山と楽山大仏」「九寨溝」などを取材している。

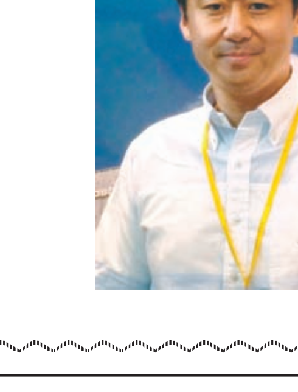
1965年生まれ。1996〜2006年にＴＢＳ「世界遺産」シリーズ（現「ＴＨＥ世界遺産」）の海外取材、演出を担当、2006年からプロデューサー兼任。2010〜2012年にはＴＢＳ・ＢＳＴＢＳの「ＴＨＥ世界遺産３Ｄ ＧＲＡＮＤ　ＴＯＵＲ」を担当。2012年にはＢＳＴＢＳの東日本大震災・復興記録番組「ＨＵＫＫＯ」の演出、プロデューサーを務めた。盛岡市出身。

王 亜雷 氏　NPO·CHINA日本中国茶協会代表

中国６大基本茶類の解説をはじめ、中国茶の基本や現状について、中国の茶葉、茶業の専門家として基礎から分かりやすく解説する。

茶葉・茶業研究で最も長い歴史を持つ安徽農業大学茶葉学部（現・茶和食品科技学部）の学士・修士課程に学ぶ。中国茶葉界の権威、故陳椽氏らの指導を受けた。卒業後は母校で教べんを取り、後進の育成に尽力。父は安徽農業大学の元学長、王鎮恒氏。

安徽農業大学客員教授、中国茶葉学会理事、中国茶葉流通協会常務理、中国国際文化研究会理事、呉覚農茶学思想研究会理事、世界茶聯合會副秘書長などの要職を務める。



吉澤 勉 氏　ヨドバシカメラ取締役広報部長

「一衣帯水友好会」は、中国からの訪日需要喚起をテーマに、2009年11月に活動を開始した民間企業の有志による集まり。日中関係が外交問題に揺れている状況でも、中国に向けて訪日を歓迎するメッセージを発信するなど、継続的な活動を展開している。活動を通じて確信した「民間レベルでの文化・観光交流を絶やすことがあってはならない」との思いなどを語る。

1963年６月、東京生まれ。1999年５月にヨドバシカメラに入社。販売、人事組織開発、インターネット販売事業などを手がけた後、外国人観光客招致担当職に就いた。2009年11月には、観光庁から「ＹＯＫＯＳＯ！　ＪＡＰＡＮ大使」（現ＶＩＳＩＴ　ＪＡＰＡＮ大使）に任命された。